

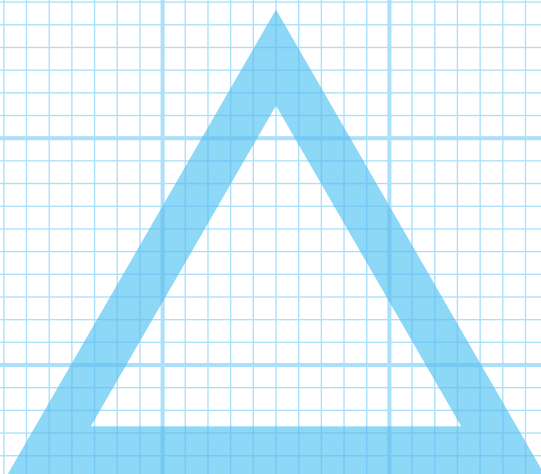
電氣の輸送

Transportation of electricity

當本(注IIにほん)は琵琶湖の水を
用ひ米國はナイヤガラの瀑布に
よりて水力電氣を起して各々其
全國內に輸送することとなる

要約

日本は琵琶湖の水、アメリカはナイヤガラの
瀑布で水力発電にて電氣を起こして、その国
の全国に輸送することになる。



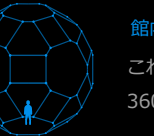
〈解説〉

琵琶湖の水を京都市へ流すために作られた水路(琵琶湖疎水)に水力発電所が設けられました。1888(明治21)年に日本初の営業用水力発電所として蹴上発電所が運転を開始し、この電力を用いて、1895(明治28)年には京都・伏見間で日本初となる電気鉄道である京都電気鉄道(京電)の運転が始まりました。その後、夷川発電所及び墨染発電所が1914(大正3)年に京都市営の発電所として運転を開始し、工業用動力としても使われて京都の近代化に貢献しました。1942(昭和17)年の配電統制令により関西配電(現関西電力)の所有に変わり、現在も発電を続けています。ただし3か所合計で最大出力はわずか7,000kwしかありません。一方、ナイアガラの滝ではアメリカ側には1961(昭和36)年、カナダ側には1922(大正11)年及び1954(昭和19)年に、それぞれ水力発電所が設置され、アメリカ側が約160万kw、カナダ側が約240万kwもの電力を供給しています。いずれの国でも、全国に送電はしていません。

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.